

厚労省がマニユアル改訂

窓口対応で政府が動揺

6月2日、マイナンバーカードに健康保険証を一体化させる法案が可決した。しかし、誤登録・紐づけミスなどのトラブルが相次いでいる。受診歴、投薬情報、健診記録などというセンシティブな情報のコントロール権の問題、また誤った情報で治療が行われれば命と健康に関わる重大な問題につながる。こうした問題を解決しないまま現行の保険証を廃止することは、受診を欠かせない患者にとって、大きな不安を抱かせ、医療機関に多大な負担を生じさせることとなる。

旧マニユアル「10割請求」の問題

資格確認ができなかった場合、いったん10割を請求してくださいというお願いが、オンライン資格確認等システムの運用マニュアル」が6月2日改訂された。

旧マニユアルでは、資格確認ができなかった人は3割負担などを支払ってもらい、事後に正確な資格情報の確認ができた段階で、訂正の必要がある場合には、所要の手続きを行っていただくことと示されている。旧マニユアルでは、資格確認ができなかった人は、いったん10割負担して、新しい資格の証明書が提示されれば、後日払い戻しを行っていただくことと指示している。新マニユアルでは、資格確認ができなかった人は、3割負担などを支払ってもらい、事後に正確な資格情報の確認ができた段階で、訂正の必要がある場合には、所要の手続きを行っていただくことと示されている。

政府は無責任やめよ

しかし改訂後も、正確な資格確認はどうすればいいのか、正確な資格確認ができない場合の7割分等はどうなるのかを示さないマニユアルとな

オンライン資格確認マニュアル (医療機関向けポータルサイトより)

オンライン資格確認の照会結果に関して

マイナンバーカードでの資格確認の結果、資格を喪失しているなど有効な資格が存在しない。

書き換え前

～省略～
患者から新資格の健康保険証又は保険者の証明書を提示された場合は、患者の自己負担分（3割分等）を受領してください。新資格の健康保険証又は保険者の証明書が提示されない場合は、患者からは10割分を受領してください。後日、保険資格を確認後、資格の負担割合に応じて患者に払い戻してください。

オンライン資格確認の照会結果に関して

マイナンバーカードでの資格確認の結果、資格を喪失しているなど有効な資格が存在しない。

書き換え後

～省略～
マイナンバーカードの券面に記載された生年月日情報に基づいて自己負担分（3割負担等）をお支払いいただき、事後に正確な資格情報の確認ができた段階で、訂正の必要がある場合には、所要の手続きを行っていただくことが考えられます。

ており、政府の無責任な姿勢がよく現れている。資格確認ができなかった場合、自己負担分以外の金額は医療機関の未収金になってしまいうことが予想され、政府への追及が進められている。自民党・公明党内からも「紙の保険証を併存すべき」との意見も出ている。

点検を求め、利便性に賛同されている先生も、システムに不安を感じておられる先生も、安心して歯科医療ができるよう、システムを再構築・整備を求めている。協会は引き続き、医療機関の先生方が現場で困らないよう、患者さんとの信頼関係を築いて、安心して歯科医療に取り組めるよう、運動を進めていく。

歯界

2022年の人口動態統計では出生率が過去最低の

法案可決後の今、実施

する方針を変更しないと云うのであれば、政府はマイナンバー情報の総点検、トラブルやエラーを起さないシステムの再構築、医療機関や患者に新たな負担をかけないような手立てをとる必要がある。協会は、実態を知らせ政府の責任で運用を見直すよう要請してきた。

多すぎる

「資格なし」

大阪歯科協会アンケート

トには「保険者情報が無効、該当資格なし」と表示されることが何度もある。「マイナ保険証では資格を確認できなかったら、一度家に帰ってからも、紙の保険証を取り戻してもらった」など126件の声が寄せられた。今後、マイナ保険証しか持っていない場合、資格確認が困難になると事例が増えることが予想される。受付に苦情が寄せられるため、患者さんの対応に不安の声も多数寄せられた。

「よい聞こえ」が認知症予防に

耳鼻咽喉科の立場から岩井浩治氏が講演

年齢とともに音が聞こえにくくなっていく加齢性難聴、難聴がさらに進むと認知症のリスクが高まるという関係について学ぼうと、「保険でよい歯科医療を」大阪連絡会は11日、市民講座「あなたも『隠れ難聴』? 難聴がまねく認知症(耳鼻咽喉科の立場から)」をM&Dホールで開き、ウェブ視聴も含め108人が参加した。

講師の岩井浩治氏(耳鼻咽喉科岩井クリニック院長・写真)は、「予防可能な認知症の要因の中で、難聴はもっとも大きな危険因子であり、『よい聞こえ』が認知症予防につながる」と語った。

岩井氏は、近年高齢化の進行に伴い聴力検査では明らかでない異常が見つからないが、騒がしい場所などで必要な音が聞き取れなくなる「隠れ難聴」がクローズアップされるようになったと紹介。



加齢により脳の神経細胞が減少し萎縮、質量の低下など脳の病理的変化から認知への影響、また加齢性難聴で耳から入る情報が少なくなり、難聴が原因で他人との付き合いを避けるようになる

加齢性難聴を回復させる方法は確立されておらず、難聴対策として補聴器の必要性を訴えた。アメリカ退役軍人192名を対象に行った調査では、補聴器装着群はコントロール群に比べて難聴の進行の抑制があり、さらにコミュニケーション能力、認知症、社会機能、感情、うつ軽減に有益な効果があったと報告。岩井氏は、まず「聞こえ」の心配があれば耳鼻咽喉科の専門医を受診し、必要であれば補聴器

さらに毎日補聴器を使用していた方の問題点として、耳垢の詰まり、徐々に外耳道に合わなくなってきたり、家族が見ると壊れていた、本人の使用法の間違ひがあった、などが挙げられ定期的な点検を促した。

最後に、岩井氏は難聴の人に対する周囲の人への対応方法について、聞こえないからと言って大きな声で話さず低い声でゆっくり話す、口を見せながら話す、聞き間違いしやすい言葉はなるべく使わない(例:しじじいなど)等、周囲の人のサポートが必要であると訴えた。参加者からは、「認知症との関係大変ためになった」「コミュニケーションツールとして、聞こえが悪くなった補聴器をつけるべきと学んだ」「難聴者への対応が今まで全く逆の対応をしていたことに驚いた」「補聴器は助成等もあってありがたいと思っただけで、誰かが当事者になりうる身近な問題である難聴について多くの感想が寄せられた。

7月9日(日)
日常診療経験交流会
チラシ同封しています



大阪府歯科保険医協会 会誌
大阪府浪速区幸町1-2-33
大阪府歯科保険医協会 代表
電話(06)6568-7731
http://osk-hok.org/
定価:年間10,000円 月1,000円
1977年5月23日第三種郵便物認可